

令和元年6月19日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02020

研究課題名(和文) 京都の「まち」とくらしの総合研究

研究課題名(英文) a comprehensive research about urban living in Kyoto

研究代表者

西村 卓 (Nishimura, Takashi)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：70156107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、京都の特性を「まちとくらし」・「文化の構築」・「排除と包摂」の視点から捉え、事例研究を行った。また、様々な学問分野が交流して研究することを意識し、研究会も多数行った。その結果、京都が抱える諸問題、特に暮らしの中の相互扶助性や排他性の一部を明らかにすることができたと考えよう。多数の学会発表や論文の発表に加え、3冊の書籍の出版に寄与することができ、一定の成果があったと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都市における社会関係の多面性と相克を学際的かつ実証的に明らかにした。特に、都市祭礼を巡る住民間の相克、在日朝鮮人を巡る諸問題を中心に研究が進み、新事実を明らかに出来たことは、京都の都市社会構造を明らかにしていく上で重要な成果と言えよう。これらの成果は、今後の都市社会のあり方を模索する上で、都市の多様性の問題や都市住民が心地よく生活できる空間と人間関係のあり方を考察する一助になると考える。

研究成果の概要(英文)：We have three different point of views to understand the manifold of Kyoto city. Our three different point of views are "housing and living", "culture" and "exclusion and inclusion of diversity". From these viewpoint, we had turned to some case studies and had some our study group workings. As a result, we clarified those facts of mutual aid and exclusion in various urban communities.

Our research contribute to publishing some academic articles and three books.

研究分野：経済史

キーワード：京都 コミュニティ 町内会 くらし 都心回帰 包摂 排除 文化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、世界的な不況、環境問題の深刻化、様々な位相での格差が広がり、国民社会の枠組みが大きく揺らぐなか、国家の限界と市場の失敗が、人類の未来に大きな影を投げかけている、その一方で、安心や安全、真の生活の豊かさ、多文化の共存を構築するために、歴史的に形成されてきた地域や都市、さらに地方自治・地域コミュニティのありかたが様々な観点から注目されている。そして、「地域」は単にそれ自体で完結しているのではなく、他の地域との関連に加えて、ナショナルおよびグローバルスケールの影響を否が応でも受けながら存在していることが、人文・社会科学の多くの研究で明らかにされている。

本研究が対象とする京都は、平安時代からの歴史を持つ都市・地域である。また、「伝統」や「歴史」が持続する一方で、工業化やグローバル化などの影響で、近現代に大きく変容している地域でもある。すなわち、京都はさまざまな時間・空間において「伝統」と「革新」の対立や調和が見られ、持続性と変容が常に混在している状態なのである。こうした地域の構築過程は、マクロな政治や経済、伝統芸術・文化だけではなく、京都に生きる人びとの「暮らし」やそれが社会的・地理的に現れる「まち」にも垣間見ることができ、京都の独自性や奥深さ、魅力を生み出す要因にもなっていると言える。

以上の認識のもと、申請者は同志社大学人文科学研究所内の部門研究の前身となる「持続的創造都市：京都のくらしと「まち」の総合研究」を立ち上げ、近世後期から現代にかけての京都の「くらし」や「まち」の変動を総合的に見据えることを目的とした研究を行ってきた。本研究は、その研究を継続発展させることに大きな目的がある。

2. 研究の目的

以上のような背景のもと、具体的には「まちとくらし」・「文化の構築」・「排除と包摂」の3つの視点で、近世後期から現代にかけての京都における事例研究積み重ね、研究メンバー間の研究交流を活発にさせることで、京都という「都市・地域」の種別性を見出すとともに、近現代の京都をめぐる社会・政治構造の解明も目指したい。

3. 研究の方法

本研究では、各自がそれぞれの研究課題を達成することを基本としながら、同志社大学人文科学研究所を拠点に、定例研究会(年4回)やフィールドワーク(年2回)を通じて、メンバー間の相互理解を図っていく。フィールドワークでは、実際に現地を見ることで、研究対象の実態を理解することが可能となり、新たな知見や視点が生み出されることも予期される。それに加えて、アンケート調査、史料調査を適宜行いながら、実証研究を積み重ねていった。

4. 研究成果

本研究は概ね計画通りに3年間の研究を進めてきた。研究会としては前12回行い、その中でフィールドワークも執り行ってきた。また、研究会の性格としても、外部に開いた研究会も催し、知見の交流の促進を図った。研究目的に記した3つの視点それぞれにおいて、一定の研究蓄積が行われ、事例を明らかにすることができた。その中で特に問題として浮かび上がるのは、京都という都市の多様性と内実の複雑さ、また住民間での相克といったものを中心とした都市社会関係の複雑さである。一方で、京都の都市社会における相互扶助性の実態も明らかにできた。この相反する作用を抱えつつも、安心安全で、真の生活の豊かさを持ち、多文化の共存する都市へと京都を発展させていくための方策を議論する土台となる事例研究ができたものと考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計10件)

- ・ 高野昭雄「京都の相愛会と朝鮮人労働者 辻紡績を中心に」『世界人権問題研究センター研究紀要』24、ページ未定、2019
- ・ 高野昭雄「近代京都の土木工事と朝鮮人労働者 錦林地区を中心に」『大阪大谷大学紀要』53、pp.1-29、2019
- ・ 高久嶺之助(2017年5月まで研究分担者)「北垣国道と鳥取人脈」同志社大学人文科学研究所『社会科学』48(4)、pp.51-77、2019
- ・ 高野昭雄「京都・大津間の交通網整備と朝鮮人労働者 山科地区を中心に」世界人権問題研究センター『研究紀要』23、pp.175-204、2018
- ・ 鯉坂学(共著)「『都心回帰』による大都市のマンション住民と地域生活 京都市中京区と大阪市中央区のマンション住民調査より」同志社大学社会学会『評論・社会科学』124、pp.1-105、2018
- ・ 高野昭雄「京都市の被差別部落と在日朝鮮人 西陣織をめぐって」大阪大谷大学教育学会『教育研究』43、pp.13-31、2017
- ・ 奥田以在「書評 森洋久編『角倉一族とその時代』」、『社会経済史学』83(2)、pp.291-293、2017
- ・ 麻生将「1916年から2013年の京都市におけるプロテスタント教会の立地」『立命館文学』

649、pp1-14、2017

- ・ 河野健男「定住促進策による I ターン者の増加-京都府綾部市の事例から-」日本ホスピタリティ・マネジメント学会『HOSPITALITY』27、pp.29-37、2017
- ・ 鯉坂学・河野健男「人口減少地域における定住促進施策と I ターン者の動向-京都府綾部市における調査から-」同志社大学社会学会『評論・社会科学』117、pp.1-84、2016

〔学会発表〕(計3件)

- ・ 高野昭雄「京都市の被差別部落と在日朝鮮人」在日朝鮮人運動史研究会関西部会、2018
- ・ 麻生将「京都とキリスト教 中世と近代」Excursion in Japan Study Group 2018, Colgate university、2018
- ・ 麻生将「京都とキリスト教 その意外な姿」京都歴史回廊協議会 第16回京都学セミナー、2018

〔図書〕(計3件)

- ・ 本岡拓哉『「不法」なる空間に生きる 占拠と立ち退きをめぐる戦後都市史』大月書店、2019
- ・ 原田敬一・高野昭雄他『近代日本の政治と地域』吉川弘文館、2019
- ・ 西村卓『近代日本の庶民史 ふつうの人々の暮らしと人生を紡ぐ』有斐閣、2018

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：田中 智子

ローマ字氏名：TANAKA, Tomoko

所属研究機関名：京都大学

部局名：教育学研究科

職名：准教授

研究者番号(8桁)：00379041

研究分担者氏名：河野 健男

ローマ字氏名：KOHNO, Takeo

所属研究機関名：同志社女子大学
部局名：現代社会学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：40144901

研究分担者氏名：鱒坂 学
ローマ字氏名：AJISAKA, Manabu
所属研究機関名：同志社大学
部局名：人文科学研究所
職名：嘱託研究員
研究者番号（8桁）：60135960

研究分担者氏名：本岡 拓哉
ローマ字氏名：MOTOOKA, Takuya
所属研究機関名：立正大学
部局名：地球環境科学部
職名：特任講師
研究者番号（8桁）：60514867

研究分担者氏名：奥田 以在
ローマ字氏名：OKUDA, Iari
所属研究機関名：同志社大学
部局名：経済学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：60609551

研究分担者氏名：高野 昭雄
ローマ字氏名：TAKANO, Akio
所属研究機関名：大阪大谷大学
部局名：教育学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70633303

研究分担者氏名：細辻 恵子
ローマ字氏名：HOSOTSUJI, Keiko
所属研究機関名：甲南女子大学
部局名：人間科学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90199505

研究分担者氏名：麻生 将
ローマ字氏名：ASO, Tasuku
所属研究機関名：立命館大学
部局名：文学部
職名：助教
研究者番号（8桁）：00707771

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。